

令和7年度 沖水小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立沖水小学校	校長名	田爪 隆敏		
学級数	38	児童生徒数	888名	職員数	67名
教育目標	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる沖水っ子の育成				

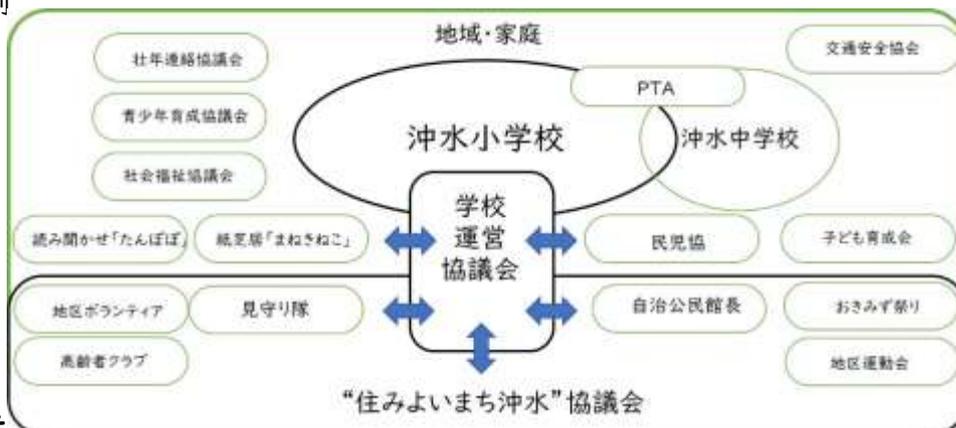
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計5名)

No.	所属名 (役職)	氏名	備考
1	主任児童委員	鈴木 和義	会長
2	主任児童委員	別府 愛子	
3	“住みよいまち沖水”協議会副会長	清藤 和好	
4	沖水中学校校長	加藤 正嗣	
5	元主任児童委員	島村 芳幸	副会長
6	沖水地区民生委員協議会会長	小田 裕子	地域コーディネーター
7	PTA会長	今別府 雅史	
8			

役職	氏名
校長	田爪 隆敏
教頭	鍋西 幸治
教頭	渡瀬 善和
教務主任	溝邊 雅幸
事務主査	衛藤 正俊

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
6月 3日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、授業参観、学校運営協議会概要説明、学校経営説明、質疑)
7月 7日	・民生委員児童委員、主任児童委員等との情報交換会(授業参観、情報交換「学校や地域での子ども達のよさや気になること」)
7月30日	・学校運営協議会拡大委員会(協議「地域・学校のよさや課題」「よさを生かして、または課題を解決するためにどんなことができそうか」、全体発表)
9月25日	・第2回学校運営協議会(授業参観、学校評価方針とアンケートの確認、学校運営協議会拡大委員会で出された内容の確認)
10月30日	・第3回学校運営協議会小中合同(授業参観、各校の現況説明、協議「学校や地域の課題に対する対応」)
12月	・学校運営協議会から自治公民館連絡協議会へ子ども110番の家確認の依頼
1月22日	・第4回学校運営協議会(授業参観、学校評価に関するアンケートの分析)
2月19日	・第5回学校運営協議会(授業参観、学校評価報告書の協議)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「地域・学校のよさを生かして、または課題を解決するためにどんなことができそうか」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 7月に教職員や学校運営協議会委員、沖水地区公民館館長、各自治公民館長、各地区民生委員児童委員・主任児童委員が一堂に会して学校運営協議会拡大委員会を開催し、「地域・学校のよさを生かして、または課題を解決するためにどんなことができそうか」というテーマで熟議を行った。その際「下校時の熱中症対策として、子ども達が一時涼む場所(子ども110番の家を含む)があったらよい」「土地勘のない教職員にとって、毎年行う子ども110番の家の確認は時間がかかる」という意見が出された。そこで、学校運営協議会で協議し、各自治公民館館長に依頼することになり、校長が12月の自治公民館連絡協議会に出席し依頼した。現在、各自治公民館で確認作業中である。

- 9月の学校運営協議会で、コロナ禍で一時中止していたベルマーク活動は再開されたのかという質問があった。回答として、今年度で活動が終了予定であるが、これまで収集したベルマークの整理が終わらない旨の話をしたところ、学校運営協議会委員の地域コーディネーター役の方が地区高齢者クラブや地区民生委員児童委員に整理を依頼してくれた。10月に3日間延べ19名が整理をしてくれ、終了の目途がたった。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 5・6年生の家庭科の学習でミシンを使ってのエプロンやナップザックの制作があった。1学級30人以上の学級で教師1人だけではミシン指導は難しい。そこで、校長が学校運営協議会委員の地域コーディネーター役にミシン指導の学習支援を依頼した。地域コーディネーター役は地区高齢者クラブ等に依頼し、9月に9日間延べ29名、11月に2日間延べ6名の方が学習支援をしてくれ、当初の計画より早く制作が終わった。



【ミシン指導の学習支援】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 新規で学校運営協議会拡大委員会を開催したことで、地域の方は学校職員のことを知ることができ、教職員は地域の方の学校に対する熱い想いを実感できた。
- 子ども110番の家の確認という学校の課題が、地域の理解と協力によって解決できた。
- 地域の教育資源(人、もの、こと)のさらなる活用を図る。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会拡大委員会の継続または中学校教職員を含めた会を開催する。
- 学校運営協議会で例えば「学校支援や地域貢献できること」というテーマで、毎回熟議をする。